



百
子
7

るる能能是はるるのるるあはるる
あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる
あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる
あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる
あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる
あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる
あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる
あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる
あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる
あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

像定藏

あけのぼる山をのぼるはなをのぼる
こゝろのぼるはなをのぼるはなをのぼる
あけのぼるはなをのぼるはなをのぼる
あけのぼるはなをのぼるはなをのぼる

あけのぼるはなをのぼるはなをのぼる
あけのぼるはなをのぼるはなをのぼる

丹波 ちよひる



あけのぼるはなをのぼるはなをのぼる	あけのぼるはなをのぼるはなをのぼる
あけのぼるはなをのぼるはなをのぼる	あけのぼるはなをのぼるはなをのぼる
あけのぼるはなをのぼるはなをのぼる	あけのぼるはなをのぼるはなをのぼる
あけのぼるはなをのぼるはなをのぼる	あけのぼるはなをのぼるはなをのぼる
あけのぼるはなをのぼるはなをのぼる	あけのぼるはなをのぼるはなをのぼる
あけのぼるはなをのぼるはなをのぼる	あけのぼるはなをのぼるはなをのぼる
あけのぼるはなをのぼるはなをのぼる	あけのぼるはなをのぼるはなをのぼる
あけのぼるはなをのぼるはなをのぼる	あけのぼるはなをのぼるはなをのぼる
あけのぼるはなをのぼるはなをのぼる	あけのぼるはなをのぼるはなをのぼる
あけのぼるはなをのぼるはなをのぼる	あけのぼるはなをのぼるはなをのぼる



~~~~と山梅をゆき。先の菌小  
舟とらに似て家を造りて  
又又よやら力なきよ水の  
すはあまのきぬ〜うらう  
津垣へゆきさぬ筆を片〜  
山登ちしと紅をしらせし  
は〜波みつとさら〜雪の力  
さてね〜まのあまハ詠く

柳

紅 珠 里 仙 舟 紅

~~~~六里の山をゆきしは  
~~~~の上中さる花むら戸  
能うやよむの~~~~  
~~~~通~~~~あのかけら  
卯午にうあ~~~~木幡山
督先々懺悔の~~~~
板の~~~~米つら花とねる
はよりめおっ仲中あ〜

珠

海

蓋と見

夷人

兄國

万子彦

花劫

石鏡

いさけしと招あしと世きぬくと
抱女のあし後をけあしと
年らゆと火の世もたは嫌しと
淡路中をゆえ次たう床しく
吳舟のちのあ後をとも号う留け
櫂乃ゆとあしと鬼や 吊ふ
糸の眼先しつとあしとりの力
あ後をともあしと 危かしくなる

星 珉 人 兄 舟 玉 彦 里

四丁

あしとくと招あしと世きぬくと
新防人のすしむ何さく
とくとしとのあしと持るま那のえ
踏らあしとふ補ゆいたく
此岸をのあしとあしと那のえ
子の中しとるしとひとあしと

既 劫 経 舟 里 人

井沼川の由

あふ

涼しき水あふまると尋すに
力さへ出ぬとて川のあふ
おもしう魚ももを流して
深淵の底乃ぬき。淋し
松人乃家もつゆ梅のふ

塘古

可部

深浦

岩取

古洞

五丁

正白やとみてさね高の傳
湖の底をり石のひまもあし
ふらうくともむむあり衣
嬉しき魚しつゝもはくまは
又ていしんまきほほのあけ
層の棟のまもむくまむら
新飛乃水をさけん 菊右
新書を甘くアをさうに

臺底

標野

古

取

南

鏡平

祥夷

帝也

る山や子あはれしなるし
暮るれと舟枝もた山経の舟
舟すしー四隅ふくふま川の舟
五
暮
魯
心

帳

秋のしやらこしやうたきしきよめ
白
登

八丁

初梅もあては力あまがたあま
あまのあまあまの柳もあまに
をうあまー又あまのあま打う
岳
長
墨
哉

心思

たきしうけくあはれ木槿哉
秋のこころあまのあまのあまの
大京やまのあまのあまのあまの
うんきとなくしりたのあまのあまの
後
平
心
先
部
崔
車
大

このアラク 徳の古ひくくまうくん

尾 ぬ

刑部々ふくうて

たきものしんちき
うらなわんをあら
るはかしてみ
の

きぬおききんせうしん

可部里

子 田

たきものしんちき

九丁

秋の夜をききんせうしん

嶺 古

いろくはしんちき

英 二

水るや月の夜をききんせうしん

足 國

一井しんちき

志 古

谷有きしんちき

一 子

澁しんちき

左 岳

能登嶺を越え

山中やんちき

臺 坂

子 臣
 去 洞
 標 價
 嚙 之
 升 六
 栲 炭
 秀 蟻
 成 兵

十丁

少玉の御書

高 三
 文 補
 静 菱
 玉 屑
 冥 々

ふら

初しと地蒸うつきしあをるる路

其成

むきののそききるるしつらぬき木立

恒丸

冬は白うもをへに出る山家の家

葉雨

山葵石ころもはくはく

ゆきうけ油ふはききり梅屋ふ

柳紅

家と山家のあそびの産花はくはく

雙鳥

十一

うらふふほのあまのあしにきり

甫秋

そらもやえと摘のつきの五器一々

景兆

水くさすらぶら下の小枝あそび

あ里保

はくはくの路

あそびの水あしにひきさうらふ

燕古

はくはくの路

あそびはくはくしてあそびるる

漢甫

小雀あそびるるの月もあそびるる

六助

あつゝのサハもはや一層の力 雲軌

寂実せしむる

初ししもや小菫の菫さきほふ
新まうきくやりの月の山おきし
海 音やまぬ力もあ 乃中 斗 入
味 陸 壇のうきもたう新くそはく地 少 汝

春

春をやくふたのしと出たり
うまの力もさくらぬこほらふ家
家五尺あそくひうそや梅のふ
字ぬら乃やそてのこころささうな
笑のうらうらもさき様乃さぬ
くはくすよのちもさきさぬあはれ

素 梨 柯 別 卓 池 祥 夷 漢 三 雲 芽

まらるの清と花がー静あり
くくくのかげにわあふ山路は

花佛
遠く見

雨ふり海かきく

雪のふりしーくく東山
くく海かきくまらる静の雪
雪ませのくくのかさくくくま
まらるのまらるくくくまの力
おまらるくくくくくまのま

万子彦
自徳
柳花
暮徳
波東

くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく

静民
力全
静民
学歴
藍雲
席杖
石録
関史

又さかきしやあまのはたきさうすま少味 物成

夷さしし相あしきさるひりやも在 方明

正也しとせしひさやみに傳り雁 権圓

とれもや厚にさしし猿舞う糸 中江女

何れはしあしし住をきし杜家 いち女

夷哉村をさすきて

すまのあま山さあしきえ雛子の能 鱈魚

仰きの藤さのそん産りり南 桑二

移ししきやうとせしはと又けしし味 星考

东山あまのよとせしし味 力居

おのれはよしし移小藤のりり
江戸のきり織ハねしきりりり
こてきりりりりりりりりりり

花とねしし猿舞をきしし味 長富

とれもや厚にさしし猿舞う糸 五頁

何れはしあしし住をきしし杜家 又左

おのれはよしし移小藤のりり 竹露

あはれくくはるをゆくちり梅
りきさくちりあのみをのちり

夷人
華劫

海のあはれくくはるをゆくちり梅

あはれくくはるをゆくちり梅
あはれくくはるをゆくちり梅
あはれくくはるをゆくちり梅

羅城
一之
夷人

あはれくくはるをゆくちり梅
あはれくくはるをゆくちり梅
あはれくくはるをゆくちり梅
あはれくくはるをゆくちり梅
あはれくくはるをゆくちり梅
あはれくくはるをゆくちり梅
あはれくくはるをゆくちり梅

可都里
毒瓶
里
、
里

旅人をあはれき痛めん伊弉山
備めまつれ平 鳴きも何鐘
くまれくまれ下手に出まゝる流火桶
連珠の垂りてまゝく流るる方と
翠巖のまれをく陰を左より
力の夕霧あつくとくし
引板鳴き響く山里をけりてきこ
地をぬきし川の眼も何とぬき

五 五 五 五 五 五

又六平 挽をうけくは雨のくは
巻巻も川 是乃半の心舟はこ
つま山あつらの中をくをく
あつらの心ぬきをなし
あつらハもさくさくもまゝの心
巻く巻の縁をひく
玉川の氷をくくも鉄く
炬のあつらふ心のもろく

五 五 五 五 五

惚く也又小す免る苦善や
位夫の氏をつむうあしを
急佛をすくはるの成る蘇
俗をお手に生れし人
新殿のあしはるをよま志成るの系
子福の候つくさうあしはる
流きつて五ねもあおる秋の月
あしはるうれを新くく信

既 了 既 了 既 了 既 了

土冠を踏つてしはる遠入口
了 了 了 了 了 了 了 了
あしはるあしはるあしはる
字流表初り年なうあしはる
一急急急急急急急急急急
あしはるあしはるあしはる

既 了 既 了

能事臺紙撰

寛政十一年未月

書林 勝田主喜右衛門

京四條通河原町西八丁

